

### “Nihil de nobis,sine nobis”(チョビチヨビシチヨシ)

#### NPO 法人やまなしライフサポート理事長 中山八十司

この発端は、昨年の夏、スウェーデンの普通的女子高生、グレタ・トゥーンベリさん(16才)が地球温暖化の危機を訴えるために、学校を休んで、自分で作った手書きのプラカードを抱え一人でストックホルムの国会議事堂前でストライキを始めたことです。しかし、彼女のこの訴えに共感し、デモに参加した人数(主に若者)は180ヶ国で750万人以上に達したと報道されています。一人の女子高生が巻き起こしたこの騒動は毎日世界中のメディア、特に Facebook 等の SNS で拡散し続けています。

今年の1月には、世界の政財界の首脳級が集まるスイスでの世界経済フォーラム年次総会で、また9月にはニューヨークで開かれた国連気候行動サミットで、世界中の財界のお偉い方々やトランプ大統領や安倍首相等世界の政治家達の前で、この小柄な女子高生が鼻を真っ赤にし、目に涙を浮かべながら真剣にそして鋭く訴えました。

「30年以上にわたり、科学が示してきた事実は極めて明確です。生態系は崩壊し、私たちは大量絶滅の始まりにいるのです。」「大人は2050年より先なんて考えない。でも私はその時人生の半分しか生きていないのです。」「若者達が生きていける地球を残すために、今行動を起こしてください。」「私たちの生きる夢を奪うな。」「遅すぎたという事態が起こる前に行動を起こさないなら、あなた方を私は絶対に許さない」。

タイトルに使った横文字(カッコ内は意味ではなく、音から閃いた独断的なダジャレ)はラテン語です。英語で「Nothing About Us Without Us!」。最近いろいろな場面でよく使われるスローガンです。政策やいろいろな問題の解決策を議論しながら決める場合、その問題に直接関係のある国や団体、

人々を仲間に入れないで事を進めてはならない。すなわち、当事者を除外した取り決めは全て不当だという意味です。

上記のグレタさんや若い高校生達は今から勉強し、働き、社会に出てこの地球上で生きていく当事者なのです。地球の平均気温上昇を1.5度以下に抑えると目標にしている時(30年後)まで、生きていない大人たちの損得で決めないで、当事者である若者の意見に耳を傾けるべきです。

グレタさんが地球温暖化の危機を訴え、たった一人でストライキを始めるきっかけになったのは、米国で銃規制を求めて授業をボイコットしたアメリカの高校生の運動だったそうです。銃器による乱射事件が米国全土にわたって繰り返されているにもかかわらず、銃器業界のロビー活動によって、一向に理想的な銃規制の法律ができないので、若者が立ち上がっているのです。

日本では第二次世界大戦の悲惨な経験から、戦争を放棄し世界平和を求める、平和憲法9条が制定されました。戦争ほど甚大な自然破壊はないので、平和は地球に最も優しいことなのに、内閣総理大臣の安倍さんは憲法改正を目指しています。もし戦争が起これば、戦場に行くのは安倍さん達大人ではなく、高校生達いやもっと若い人達かもしれません。

沖縄の辺野古埋め立て問題を筆頭に、当事者の意見抜きで決められていることが最近の日本には多すぎます。やまなしライフサポートが支援の対象として巡り合う方々の中にも、そんな当事者抜きの取り決めによって社会との繋がりを奪われ、苦境に追い込まれている実態が多く見られます。ライフサポートの活動目標に立ち返りながら、この問題に取り組みたいと思います。

### 2019年度上半期の主な活動実績

2019年4月~2019年9月 人数は延べ数

炊出し(弁当配布含む)	1,504名(24回)	緊急一時宿泊(ライフ荘)	284泊(36名)
健康相談	366名(55回)	生活保護申請	14名(受給実績12名)
路上生活者面談	177名(173回)	就労相談、就労サポート	137名(就労実績12名)
生活保護・年金受給者面談	95名(79回)	見守りパトロール	87名(33回)

## 特集 健康・医療

当法人が支援した生活困窮者の内、4人に一人が心身に問題を抱えていました。最も多かったのが高血圧や糖尿病などの身体的な疾患で、次がうつや統合失調症などの精神的疾患でした。知的障害やひきこもりの方などが続きます（下のグラフ参照）。一般の方の罹患率と比べるとかなり高い比率です。経済的事情や健康への関心度や情報量、生活環境などにその背景があるように感じられます。

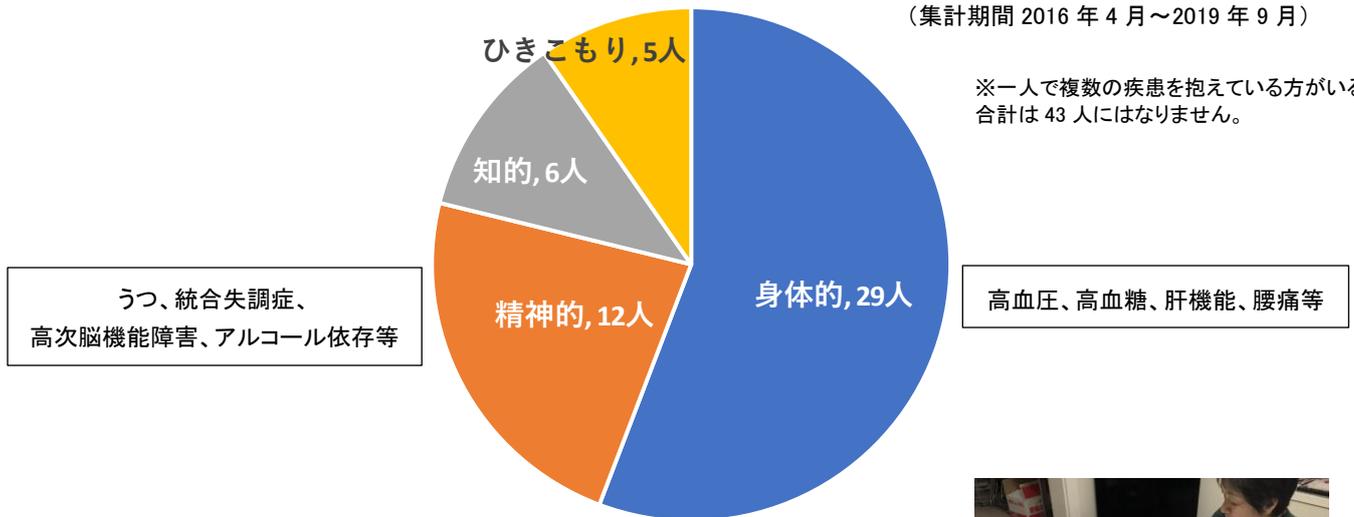
当法人では専任看護師がそれらの方の健康相談に関わる一方、病院、保健所、自治体等との連携により問題の早期発見と改善に努めています。

また、無職の路上生活者に対しては、「稼働年齢層（65歳未満）イコール就労支援」と支援方法を固定化せず、まず就労可能な健康状態であるか確認し、状況に応じて必要な治療を受けられるように支援しています。

### 【やまなしライフサポートが支援した173人の内、病気等に罹っていた方43人の内訳】

（集計期間 2016年4月～2019年9月）

※一人で複数の疾患を抱えている方がいるため合計は43人にはなりません。



### 1. 高血圧の方の支援事例

#### 自覚症状ない方の治療支援

Wさん(65歳 男性)

長年トラックの運転手をしていましたが、失業してK市の生活保護を受給していました。炊出しを利用するようになり、利用時には健康チェックをしました。常に200以上の最高血圧がありましたが、本人は「生まれつきです」と言って病院受診の助言を聞き流していました。

しばらくして、頭痛を訴えようやく病院にかかるようになりました。しかし間もなく近隣トラブルでアパートを出て、路上生活となったため生活保護が停止となり、治療は中断となりました。その後ドライバーの仕事をすることはありませんでしたが、2年間程度治療を中断していたため高血圧の影響と思われる頭痛が続き、また高血糖も認められました。当法人の看護師が放置は危険と判断し、甲府共立診療所に無料低額診療事業の利用をお願いし再受診に結びつきました。そこで医師から、就労よりも治療が優先という判断をいただき、再度生活保護を受けて治療に専念することになりました。



今年8月になってアパート訪問したところ、カーテンを閉め切った暗い部屋で寝ており、布団の周囲はゴミの山でした。病院にはしばらく行っていないとのことでした。事情を聞くと、「身体がだるくて動く気力がない」との回答だったので、緊急に病院受診が必要と考え、生活保護のケースワーカーに報告すると共に近くの医院に受診同行しました。血圧は200以上、血糖値は300以上もあったため即入院の判断となり、甲府市立病院に転院しました。

半月ほどで退院し、現在は通院と投薬による治療が続いています。今後は地域包括支援センターとの連携も踏まえて見守りを継続し、治療中断にならないよう注視したいと思います。

もし今年8月の訪問で会えていなかったらと思うと、重大事態に陥る前に安否確認ができとても有効な訪問だったと考えています。

## 2. 統合失調症の方の支援事例

### 精神科受診が社会復帰の契機に

Tさん(35歳 男性)

高校生時代は新しい環境になじめず中退し、派遣やスーパ－の仕事で20ヶ所くらい替えながら働いていました。両親からは定職に就いて家を出ていくように言われていました。その後、両親への金銭の無心や、家庭内暴力を繰り返して逮捕され、更生保護施設に入所しました。施設では恐怖感、不安感が強く体がガタガタ震え2階の部屋から飛び降りたこともあり、退所することになりました。

その後弁護士を通じ当法人につながり、緊急一時宿泊施設(ライフ荘)に2週間の予定で入所しました。ところが、入所二日目に当法人の看護師宛に「相談したい、自分でどうしたらよいか分からない、不安でしょうがない！」と悲痛な叫びの電話が入りました。面談すると「不安感がいつも有り病院にかかりたかった。小学5年生ごろから不安感があり、夕方になると不安になり泣いたりしていた。親からは誰でも不安感

はあると言われ理解してもらえず、父親からは殴られた。中学頃から過食嘔吐を繰り返した。」などを語りました。

精神疾患が疑われたので住吉病院に連絡し、医療相談員に早急に無料低額診療で受診したいとお願いしました。受診の結果は、「統合失調症」の診断で入院治療が必要と告げられました。一旦は入院承諾したものの、病室に入った直後に入院拒否。医師、看護師、当法人の説得により、ようやく同意し入院となりました。医療費は払えないので生活保護申請することにも同意しました。

入院後一年半を経て退院となり、当法人のアパート紹介により今秋からアパート生活での新生活をスタートさせました。現在は、毎日病院の治療(作業療法)を受け、服薬を続けながら、将来の就職に向けた準備をしています。

先日久しぶりに面談したら穏やか様子で、前向きな会話ができて、別人のようでした。これからも時々訪問して、サポートを続けていきたいと思えます。



健康チェックの個人別ファイル

本人と救護施設入所の相談をする中で、本人が小中学校時代に特殊学級(現在の特別支援学級)に在籍していたことが判明しました。それまでは、お金の管理ができず、仕事も続かず、掃除もきらいということで、怠惰でいい加減な性格との判断をしていましたが、知的障害を抱えていたことに気づき、判断の間違いを反省しました。

その後、救護施設の内容を本人にも分かりやすく説明しました。長所(金銭管理や食事の心配がない、清潔で安全な環境)や短所(外出制限、相部屋、禁煙等)について説明し、施設見学も行うなど意思決定のための支援を行いました。その結果施設入所に同意し、入所に至りました。

入所後2ヶ月を経過した現在、健康で元気にお過ごしになっています。

## 3. 知的障害の方の支援事例

### 「特殊学級」が支援進展の決め手に

Nさん(63歳 男性)

数年前からK市の生活保護を受け生活していましたが、自転車窃盗で逮捕・収監され保護停止になりました。出所後、再度K市の生活保護を受給しましたが、生活保護費を悪い友人に搾取されていることが判明し、保護打ち切りになってしまいました。

次にF市の生活保護を受けつつ、当法人の就労支援により農業関係の仕事が決まりました。しかし、1日出勤ただけで2日以降は無断欠勤となってしまいました。本人を問い詰めたところ「1日7.5時間の勤務はきついからもう行かない。」との答えでした。

その後、保護費の管理ができず食べ物がなくなり、ライフラインも停止になる一方、部屋の中は足の踏み場もなくゴミが散乱している状態が続きました。猛暑の中エアコンが使えず、食事が十分摂れないため生命の危険が迫っていると判断し、F市のケースワーカーと相談し、本人に救護施設への入所を勧めることにしました。

## 4. ひきこもりの方の支援事例

### 炊出し弁当の活用と地域ぐるみ支援

Tさん(56歳 男性)

民生委員が対応に苦慮しK市役所に相談したのがきっかけでした。市役所から見守りを依頼された当法人は、民生委員、自治会長、障害者基幹相談支援センター職員と共に自宅訪問しました。

数年前の両親の死去後から引きこもったということで、一戸建て住宅の居間の仏壇の前に布団を敷き寝ていました。枕元には位牌が置いてありました。健康状態や生活の事を聞くと布団の中から「大丈夫です。」と答えるのみで、会話になりません。今後、毎週1回弁当を届けに来ることを提案しましたが返事はありませんでした。

翌週から毎週木曜日に、炊出しの食事を弁当箱に詰めて配達するようになりました。当初は居間の見える縁側に置いてくるだけでしたが、少しずつ会話ができるようになり、看護師の健康チェックにも応ずるようになりました。しかし、病院受診や生活保護申請の提案に対しては聞く耳をもたず、相変わらず「大丈夫です。」の一言でした。そこで関係者で相談し、弁当配達によるコミュニケーションは継続しつつ、保健所との連携のもと、別居している姉弟から病院受診を説得してもらうこととしました。

出会いから4ヶ月後、精神科病院への入院が実現し、統合失調症との診断を受けて治療。現在は退院して社会復帰を目指す訓練を受けておられます。

## ボランティアさん募集

当NPOの活動に協力していただけるボランティアを募集しています。詳細につきましてはお気軽にお問合せください。

### 1. 炊出しボランティア

- ・毎週木曜日 午後2時～5時(一部でも可)  
カトリック甲府教会にて(甲府市中央 2-7-10)
- ・調理、配食、片付け等のお手伝いをさせていただきます。
- ・マスク、エプロン、三角巾をご準備ください。



炊出しメニューの例  
カレーライス、みそ汁、ちくわと大根の煮物、ゆで卵、野菜サラダ、漬物他

### 2. 見守りパトロール

- ・隔月第4日曜日 午後2時～4時30分頃 カトリック甲府教会集合  
(8月、12月は夜間パトロールとなります。詳細は別途お問い合わせください。)
- ・数グループに分かれ、甲府市と周辺部をパトロールし、路上生活者の発見や安否確認をします。

## 物品のご寄付を募っています

路上生活をされていた方がアパートでの生活を始めるにあたり、様々な生活用品が必要になります。多くのご寄付をいただいておりますが、現在右記の物品が特に必要です。ご連絡いただきましたら当方より受け取りに伺いますのでよろしく願いいたします。

小型冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、  
小型テレビ、電気炊飯器、コタツ、  
電気ポット、自転車、カーテン、布団

## 会員募集中です

やまなしライフサポートの活動を資金面で支えてくださる方を募集しています。

正会員(当団体を支援し活動に参加して下さる方。総会での議決権有り)	年会費 個人 5,000円 団体 10,000円
賛助会員(当団体の活動を応援して下さる方)	年会費 個人 3,000円 団体 5,000円

入会申込書は、やまなしライフサポートのホームページ(<http://yls.or.jp/>)からダウンロードすることができます。